



ウルグワ井から

鹿野久市郎

る。廣い自動車道あり。海岸に沿うてしばらく走つてゐるが前は大西洋の波うち寄する海水浴場。いろいろの椅子なども取り残されたり。後は邸宅地にして亞國富豪の懐を揃るべく焼失の家屋六百戸に達す最近各地に大火續出し、あるが相州小田原にも亦大火あり六百戸爲めに鳥有に歸したり

りも貧しくとも單騎獨行せんかな。  
鳥國の政治家にも燕趙の士を輸入せ  
ねばならぬ。

はやく云へば烏爾圭國は南米のチ  
ナコである。僕はその賑やかなに  
驚いた。

十三日夜十時宮島博士加藤夫妻飯  
野氏ブエノスアイレスへ向つて立つ  
た。一等船客たらざりし僕には切合  
が賣られぬと聞くや否や僕は大に西  
國入國難を憂ふるの餘り落膽の結果  
激しき感情に罹つた。もつとも暑い  
伯國から寒い南へ來た勢もある。(極  
に秋風の吹く勢もある。シャツの汗  
が膚に冷く觸れる勢もある。

モに受けしに明白なる病體も見受け  
く治療の効力無く、只今に至り頭  
に腰非常に痛くアバラより下腹に  
何處なく針にて刺すが如き痛  
あり、度々子宮洗滌致居候も濃厚  
白帶あり、小便は濁りて米のヌカ  
飯如く度數近く困難致居候病名及藥  
の御教へ願上候(モジヤナ廿二才女)  
科●答 病名は子宮内膜炎の進みた  
もの、それに尿道炎或は膀胱カタ  
亞果なども合併してはゐないかと考へ  
れます。夫と別居して治療する事  
第一要件だと信じます。手當は下  
部に温濕布をする事、五十磅硼酸カ  
塙液(Acido borico 12.0 grammesを四  
に溶かせば良い) 内服藥は Urotri-  
ma 1.5 gramma(一日の量)を一日  
回に別けて服用する、身體の冷へ  
ずが、來ましてから仕事をするご  
様、放尿の時痛みある間は刺戟性  
の各部が痛むで仕事を休む様な事  
めありますたが、本年二月お産をし  
てから急に其病氣が悪るなつて  
食物即辛味類並びに鹽氣を少々減  
らせる事などの注意が要ります。

●答 御最もな疑ひです伯國だかごてりウマチスに變りはないので勿論筋肉リウマチスと云ふのは關節炎であります貴方の様な病状を呈しこの方としても色々な原因で起りますから一様の手當や治療法では治せんどうしても醫師に依頼するり道がないのです。

## 盛なる春宵の集会 日本海外發展博覽會

日本近信

# なる春宵の集ひ

## 本海外發展博覽會披露會

得ざる事として諸君の御諒察を願ひたい、抑故本野子爵は其在職中常に日本海外の發展は一に在外邦人の奮闘に俟たねばならぬ事を口にせられ、それには内地に於て此等在外人の成績を示して其の發展の模様を知らしめねばならぬ、日

上は必らずや大成功を收める事も亦豫め期すべきである、萬が一に大學に入るべき七八十名の學生を以て不成功に終るやうな事があれば、北里研究所長を學長に迎へて殿それこそ日本人は海外發展に望みなき事となつて、眞に世界の隅に追込まれねばならぬものとなつて了ふ、此點から言つても是非此教授助教授は約三十名、助手約五十名に於ける私立大學の第一聲を揚げ帝國醫科大學を向ふに廻して花々しく對陣することになつた、同大學の

# 植民募集

西原植民地

Estação Porto João Alfredo  
L. Sorocabana

土地の年期貸與、家屋、食料、其他に關し各種の  
便宜を供し小資本を以て確實多量なる農産の  
持主たらしむるを方針とす

米、豆、カンナ、棉花、煙草等の收穫善美にして運  
輸交通の便宜と衛生佳良なる経験を有す

明細書は御請求に應じ送呈す 猶ほ實地御視察

を乞ふ

## 『イグアペ』植民地

○當植民地は醫師、獸醫、農業技師、測量技手、園藝得業士等常置し植民の保護誘掖上必要な組織を有す

○當植民地は道路四通八達交通自在なり

○當植民地に於ては新來植民は耕作時期まで日雇又は請負の勞働に從事するこ

●當植民地には資力乏しき者にても自作  
農業爲し得る方法あり

○ 汽車の「サントス」發は毎週月曜日水曜日（午前九時二十分）土曜日（此日だけ午前七時）にして其「ジユキア」植民地本部「レチストロ」に到る道案内

○○着は午後四時  
○○此門の貳等運賃は十鉄百レースなり  
○○『ジユキア』には停車場近くに小旅店二軒あり。宿料参  
鉄内外なるが投宿の際取極め置く方宜し  
○○朝汽船又はガリラヤにて『ジユキア』と並んで

●此間運賃參糾なり  
●翌朝船着にてサン・シニヨンにて「シニヨン」を立  
ば當日「レヂストロ」に到着すべし

卷之三

(三) 號十九 第一  
藤村義朗各男、菅原通敬氏衆議院 ◆此名士大實業家が控室に於ける閑談(対話)は實に日本將來に亘つて何れには政尾藤吉氏、加藤定吉氏、官吏には下村臺灣民政長官、古賀拓殖局長、犬塚農商務次官、岡本商工局長には上野前布琉總領事などの顔が揃つた況や同會に滿腔の贊意を表しつゝも當夜特に支障を生じて來會を得なかつた大官名士に至つては殆んど列舉するの迄部管理局長、東園内務部長、大城戸朝鮮總督府屬託外交官には上野前布琉總領事などの顔が揃つた況や同會に満腔の贊意を表しつゝも當夜特に支障を生じて來會を得なかつた大官名士に至つては殆んど列舉するの迄も傾聽すべき有益且つ有力なるものであつた、而してそれが期せずして皆海外に歸りし從つて今度の博覽會の必須事なる事に一致して居たのである。六時半から食堂は開かれた、廳て拍手雷の如く起る處平山會長は起つて一場の挨拶を述べた  
『今夕平田總裁の小恙の爲め缺席せられた事は遺憾であるが己むを

傳ふる者がある、全く心細い事計りを聞く、併し事實は決してそんな事計りではあるまいと信する、此の秋に際して日本海外發展博覽會の如き海外飛躍の企てある事を耳にする事は頗る人意を強うする上に於て適切喫緊の施設であると思ふ。

◆斯る必要な事業が其設計の周到にして又本夕會台の如く有力なる各方面の人士の賛同助力ある以

て、

▲授業を開始 することになり茲に

西信濃町の新校舎……

◇附屬病院も基礎工事を終る

四谷西信濃町舊轄重大隊跡に建設中の慶應義塾の醫科大學は此程校舎（醫化學、藥物、生理、解剖の各教

室四棟千二百坪）が出来上つたので四月十六日午後二時開校式を挙げ十日からいよ／＼

外八名の教授が百十四名の看護師を養成して居る昨日同大學を訪ぶと門は未だ竹矢來に鎖され校内に多數の人が立働いて居るのが見える、門を入ると左側に學生控室といふベンチキの香高き新建の平屋があつてそを假事務所に當て授業時間割表を掲げ早や授業が始まつて居るやうな氣がするのである。

新智識

つたのである、此砲に使用する弾丸は一個の重さ二百七十貫餘りで、強烈なる暴薬が填質されて居る故に之が命中する如何なるものを吹き飛ばして存在を無くする如き威力がある、『リエージュ要塞の陥落も珊瑚砲』である、此砲の一弾の重さは實に四百貫強である、日露戦役に我軍方に續て現はれたのが佛國の五十二吋自耳義軍が此巨砲に氣を呑まれて早く降服をした原因をなして居る事に比べて見る、隔世の感が起るであらう、更に驚くべきは獨軍が三十里の遠さに及ぶ長射距離砲を用ひが二十八珊瑚砲砲を使用したと言ふ事に比べて見ると、隔世の感が起るゑ附けて東京が撃てる譯である、此飛行機が發達して彈丸の落達景況を観測し得る様になつたのが最大原因であるが、歐洲戦に於て獨佛兩軍共に砲兵陣地に知らしめ、之により修正をして弾丸を希望の點に命中せしめる様なのである、之れは餘程であるが、飛行機が觀測し其落達の良否を無線勿論大砲を作る技術の進歩にある電信により砲兵陣地に知らしめ、之が觀測が出來なければ所謂間に鐵砲である、故に落すこと出来る様になつたのは、毫も電信により砲命中の如何を傳書鳩によりて命中中の如何を知らんせば、飛行機又は其他の手段により、數羽の足又は頸に其景況を記したるもの

を附着して放つのである、然る時此鳩は大島に歸つて其の報告を砲鳩は重大なる任務を果し得る重要な観測者に知らせるのである、如るものであるから、臣下各國共に門的に之れが訓練使用を研究し居る。

旅行第九日目

四月五日

僕の旅行（九）

日 置 剛

完全なる植民地としての發展に最大なる關係を有するものは、實に通の便否如何である。其の植民地生産物を市場に運搬する鐵道、汽船等の便なる事の必要は勿論なれども、而も植民地なるものは一個の自治路の完否は、堅實なる自治體構成の如きものであつて、一般に其の難易に關するものである。此意味積は廣大なるものであるから、從て其の植民地内に於ける完全なる専門技師を置いて、常に其の道路完成に勉めて居る事は實に其の地住する植民諸君の幸福であらうと思ふ。

午前七時僕はボンビニヨ號に、安氏は龍田に跨つて道路敷設に關す説明を聞くべく大野道路部長を訪した。氏は曰く「明治四十五年即ち當植民地の創業當時は僅かに二三幅の「カボタロ」（土人）の通交した位なものでした。そうして植民地の境界、道路敷設に關する設計等の査に恰度五ヶ月を要しました。當時は言語も不通で隨分苦心しましたね。最初道路工事に掛つたのが洋支道キロムボ道、マンガラルガ道であると共に、中央道路より第一、二、第三、第四等の支道を敷きました。最初道路工事に掛つたのが洋支道キロムボ道、マンガラルガ道はやつと昨年五月以來に完成いたしました。現在當植民地内の道路距離は優に八十キロ米突以上で、以上になるでしょう。道幅は總て半度未だ其の工費は勿論地勢状態工の難易に依り違ひますけれども、

命の母、實母散、中將湯、清婦湯  
豐血湯、さぶらん湯、人壽湯、痛  
湯、以上血の道一切ぶり出し藥一  
ミル二百五服送料六百レース、  
宮差入藥、壹箱參ミル、月さらゑ  
新月丸、毎月丸、一週分六ミル、  
程價に奉  
心丹、仁丹、セム、清快丸、以上  
袋一ミル、寶丹、萬金丹、大鐘二  
千金丹、八枚入、三ミル五百、清神  
一角丸、奇應丸、救命丸、以上小  
虫一切及び熱さまし一ミル三百、  
龍圓大鐘三ミル、セメンエン、セ  
ル千金丹、八枚入、三ミル五百、清神  
二百、ジケスチ、以「上」下し、袋一ミ  
シエンエヌ、以「上」下し、カジア・スク  
一百個三ミル五百、太田胃散大二  
ル四百小一ミル二百、ピット爾散  
ミル八百、腸胃散二ミル二百、コ  
ダエン、熊の膽丸、腸痛止め一個  
ミル四百、アンチヘブリン散、百  
散、キナビリン、以上熱サマシ一  
ミル二百、大學目藥、回春目藥  
トランホーメン水一ビン一ミル二百、  
田舎大鐘三ミル六百、玉霜散、イ  
ル、静靖丸、一名健腦丸一個二ミル  
膏指藥大貝一ミル二百、貴眞膏、萬  
膏藥一個四百レース、ヤケド薬一  
ル五百、毛生液、ケハエ藥大ビン四  
リ、タムシン皮膚病藥、ホーサン  
膏指藥大貝一ミル二百、貴眞膏、萬  
膏藥一個四百レース、ヤケド薬一  
ル五百、毛生液、ケハエ藥大ビン四  
百、下痢止め一ミル二百、毒掃丸  
梅毒、胎毒下し大袋四ミル、水銀  
膏一ミル二百、痔妙丸、痔退丸、  
ノ藥一ミル二百、次亞燒大ビン五  
ル、克快丸、變質丸、以上リウマ  
ス藥五百分三ミル、脚氣專門藥二  
ル五百、虫齒口中的タマレ藥一ミ  
サフラン其他各種類  
十ミルの御注文に對し送料一ミル  
レス宛  
◆大根之部  
各地に取次所募集す

る 島大大良 レルサミルミチミジ軟、四ミミ金軟セ淺、袋中貳ローミークルメ五兒丸ミ一清、子服積、



# Notícias do Brasil

27 de Junho de 1919 No. 94

號四十九第 日曜金 日七廿月六年八正大



平内

第十八席 荒木又右衛門 平内  
の氣力を試す事  
儲平内は好い對手を見付けたと思ふ  
から、嬉しくて仕方がない、長兵衛  
と總平、三人で奥の間に於て酒宴を  
始め互ひに武術の物語りを致さんと  
益を進めた、然る處が總平は何うか  
云ふ譯か頻りに辭退をして總角年  
の御思召しが今日は差掛つて急ぐ  
用事もござれば、何れ後日改めてお  
禮に伺ひます』と逡巡りをして居  
る平『マア好いではござらんか、是  
非一献……』と云ふのを袖を振拂つ  
て歸つてしまつた平『長兵衛殿變な  
人物ではござらんか、彼は……』  
長『サア、小哥には譯が分らねえ、  
だが先生も偉かつたが、彼の人物の  
青眼の構へといふものは天下一品だ  
つた、小哥ア實に驚きました』  
所を問うても言はず、何れの御藩か  
ど聞いても言はぬ、腕は高大だが迂  
散な人物……』と平内は腕を組んで  
考へたが、儲て此木梨とは何者であ  
りませうか、これは今雷名天下に鳴  
り響く柳生流の大名人豪傑荒木又右  
衛門吉村其人でござります、平内も共  
に平内の横腹目掛けでブツリー、  
長兵衛も是りやア知らなかつた、妙  
な修行者があるものだと唯呆れ返へ  
つて居ります内にも平内は手の内の  
玉を失つた様な心持がした然るに其  
翌日の正午過ぎのこと柳生但馬守  
様よりお使者使儲て平内殿、御前  
が少々頼み入りたき一儀ござれば、  
木挽町の御屋敷に罷り出でました、  
例の離座敷に案内をされて、取『暫  
時御入來下されたい』と言ひ置  
て立歸つて行く、平内長守は何事な  
がら急ぎ服を着用に及んで早速  
本挽町の御屋敷に罷り出でました、  
生は至つて鄭重に扱つて下さるのが  
此處にてお控へ下さい』と其儘案  
内者は立去つてしまひましたが、平  
て『エイツ』と氣合の掛聲諸共詰め  
元の不動心に立歸り、上下姿其儘で  
泰然として構へります、所へ又  
星の如く輝かして何奴なるかと見て  
内は出ない、座蒲團も呉れなければ  
あれば、何んぞ計らん、昨日武術修  
見えました、飛騨守はリウ／＼と槍

は唯六疊の薄暗い座敷へ放り込まれ  
た儘、稍々二時今の四時間程も待さ  
れました平如何いたしたのであらう、平ヤ、貴殿は木梨殿ではない  
馬守聲荒らげ但ヤア平内、汝は兎  
はか、これは又單性な振舞、但馬守様  
は何か急用があるに相違ないが、實  
に怪からん話である』素々短氣の  
ヤツ』と凜然として呼はつた此時但  
内ブツ／＼ご怒りながら又一時は馬守聲荒らげ但ヤア平内、汝は兎  
から相待つた、待つては見たが誰一角  
は見廻して居りましたが、今日にて  
人出て來ない、誰かに様子を聞いて  
見やうといふ意りか廊下へ出てウロ  
始まつた、然る處が總平は何うか  
かと總平、三人で奥の間に於て酒宴を  
益を進めた、然る處が總平は何うか  
云ふ譯か頻りに辭退をして總角年  
の御思召しが今日は差掛つて急ぐ  
用事もござれば、何れ後日改めてお  
禮に伺ひます』と逡巡りをして居  
る平『マア好いではござらんか、是  
非一献……』と云ふのを袖を振拂つ  
て歸つてしまつた平『長兵衛殿變な  
人物ではござらんか、彼は……』  
長『サア、小哥には譯が分らねえ、  
だが先生も偉かつたが、彼の人物の  
青眼の構へといふものは天下一品だ  
つた、小哥ア實に驚きました』  
所を問うても言はず、何れの御藩か  
ど聞いても言はぬ、腕は高大だが迂  
散な人物……』と平内は腕を組んで  
考へたが、儲て此木梨とは何者であ  
りませうか、これは今雷名天下に鳴  
り響く柳生流の大名人豪傑荒木又右  
衛門吉村其人でござります、平内も共  
に平内の横腹目掛けでブツリー、  
長兵衛も是りやア知らなかつた、妙  
な修行者があるものだと唯呆れ返へ  
つて居ります内にも平内は手の内の  
玉を失つた様な心持がした然るに其  
翌日の正午過ぎのこと柳生但馬守  
様よりお使者使儲て平内殿、御前  
が少々頼み入りたき一儀ござれば、  
木挽町の御屋敷に罷り出でました、  
例の離座敷に案内をされて、取『暫  
時御入來下されたい』と言ひ置  
て立歸つて行く、平内長守は何事な  
がら急ぎ服を着用に及んで早速  
本挽町の御屋敷に罷り出でました、  
生は至つて鄭重に扱つて下さのが  
此處にてお控へ下さい』と其儘案  
内者は立去つてしまひましたが、平  
て『エイツ』と氣合の掛聲諸共詰め  
元の不動心に立歸り、上下姿其儘で  
泰然として構へります、所へ又  
星の如く輝かして何奴なるかと見て  
内は出ない、座蒲團も呉れなければ  
あれば、何んぞ計らん、昨日武術修  
見えました、飛騨守はリウ／＼と槍

は唯六疊の薄暗い座敷へ放り込まれ  
た儘、稍々二時今の四時間程も待さ  
れました平如何いたしたのであらう、平ヤ、貴殿は木梨殿ではない  
馬守聲荒らげ但ヤア平内、汝は兎  
はか、これは又單性な振舞、但馬守様  
は何か急用があるに相違ないが、實  
に怪からん話である』素々短氣の  
ヤツ』と凜然として呼はつた此時但  
内ブツ／＼ご怒りながら又一時は馬守聲荒らげ但ヤア平内、汝は兎  
から相待つた、待つては見たが誰一角  
は見廻して居ましたが、今日にて  
人出て來ない、誰かに様子を聞いて  
見やうといふ意りか廊下へ出てウロ  
始まつた、然る處が總平は何うか  
かと總平、三人で奥の間に於て酒宴を  
益を進めた、然る處が總平は何うか  
云ふ譯か頻りに辭退をして總角年  
の御思召しが今日は差掛けた急ぐ  
用事もござれば、何れ後日改めてお  
禮に伺ひます』と逡巡りをして居  
る平『マア好いではござらんか、是  
非一献……』と云ふのを袖を振拂つ  
て歸つてしまつた平『長兵衛殿變な  
人物ではござらんか、彼は……』  
長『サア、小哥には譯が分らねえ、  
だが先生も偉かつたが、彼の人物の  
青眼の構へといふものは天下一品だ  
つた、小哥ア實に驚きました』  
所を問うても言はず、何れの御藩か  
ど聞いても言はぬ、腕は高大だが迂  
散な人物……』と平内は腕を組んで  
考へたが、儲て此木梨とは何者であ  
りませうか、これは今雷名天下に鳴  
り響く柳生流の大名人豪傑荒木又右  
衛門吉村其人でござります、平内も共  
に平内の横腹目掛けでブツリー、  
長兵衛も是りやア知らなかつた、妙  
な修行者があるものだと唯呆れ返へ  
つて居ります内にも平内は手の内の  
玉を失つた様な心持がした然るに其  
翌日の正午過ぎのこと柳生但馬守  
様よりお使者使儲て平内殿、御前  
が少々頼み入りたき一儀ござれば、  
木挽町の御屋敷に罷り出でました、  
例の離座敷に案内をされて、取『暫  
時御入來下されたい』と言ひ置  
て立歸つて行く、平内長守は何事な  
がら急ぎ服を着用に及んで早速  
本挽町の御屋敷に罷り出でました、  
生は至つて鄭重に扱つて下さのが  
此處にてお控へ下さい』と其儘案  
内者は立去つてしまひましたが、平  
て『エイツ』と氣合の掛聲諸共詰め  
元の不動心に立歸り、上下姿其儘で  
泰然として構へります、所へ又  
星の如く輝かして何奴なるかと見て  
内は出ない、座蒲團も呉れなければ  
あれば、何んぞ計らん、昨日武術修  
見えました、飛騨守はリウ／＼と槍

があります、是も如何にも日本

人を侮辱した言で心外でたまりませ

ど、外國人の侮辱する様なことを日

本の女が實際行つてゐるのであります。

◆それならば是は何うすれば廢

まりません、之を根本的に廢めなれば、

到底日本の女は外國人から尊敬を受

ける様にはならむのであります。

◆それならば是に就ては私も隨分色々

のあらう道理はございませぬ、夫れ

て眼を怒らし髪髮逆まに平『ヤツ』と

飛騨守は不意を打

たれて思はず三尺ばかり後に飛退め

す、今現仕醜業婦と云ふ動物的境涯

とか、家の爲めとか云ふ美名の下に

に沈んでゐる憐れな女達の情態を探

つて見ますと、其の多くは親の爲め

に沈んでゐる憐れな女達の情態を探